

英語活動指導案 (公開研究会授業)

指導者 HRT 清水 道晃

1 題材名 「どこにいるの?②」 ～ 動物園マップを完成させよう ～

2 題材について

(1) 本時に関わる英語活動

5年生の児童は、前年度までに日常生活で比較的良好に登場する動物の英単語に触れてきており、今年度の英語活動でも、チャンツやゲームなどを通して慣れ親しんできた。また、前時では、場所を尋ねる『Where is the ○○?』と『on, in, under』の前置詞を使った場所を表す答え方に触れており、本時のタスク「動物園マップを完成させよう」に類似した活動を1時間経験している。本時は、前時に取り上げた施設や動物名を活用しながら、さらに数種類の施設や動物名を取り入れた活動内容となっている。

(2) 題材の特徴

総合的な学習の時間における英語活動では、言語習得を主な目的とするのではなく、興味・関心や意欲の育成をねらうことが重要であり、小学校では、児童の日常生活の中で耳にする英語や身近な場面を扱うことを重点に置き、楽しさの中に英語に慣れ親しむことが出来るような工夫をすることが大切である。さらに、音声を中心とした活動を十分に取り入れ、相手の話を聞き取ったり、自分の言いたいことを相手に伝えたりするコミュニケーション能力が向上すれば、より楽しい学習活動につながり、さらに生き生きと活動に取り組むようになると考えられる。

そこで、本活動では、単に単語を習得するドリルを行ったり、授業者が言ったことを反復練習したりするだけではなく、相手の言いたいことを聞き取ったり、自分が判断したりするタスクを主活動とし、コミュニケーション能力の育成につなげていく。

効果的なタスクは、

①ねらいにつながる言語が使用されていて、到達点（ゴール）が明確に設定されていること

②内容が現実の社会と深く結びついていて実際のコミュニケーションと同じような状況であること

③学習者の興味・関心及び知的レベルに合っていること

と考える。このことを踏まえ、本活動のタスクは、「動物園マップをつくる」ことを到達点とした。これは、動物の居場所が分からない児童が、居場所を知っている人から情報を聞き取り、動物園マップを作成していくものである。このタスクを解決するためには、児童一人一人が本活動で学習した『on,in,under』を活用したり、動物の名前や居場所を判断したりすることが必要となる。また、動物の居場所を教える児童も動物園マップの情報を相手に伝えるために、同様の過程が必要となってくる。さらに、「尋ねる立場」と「教える立場」に分かれてやりとりする場を設定することで、お互いが相手の反応を確認しながら伝えることも必要となり、児童同士のコミュニケーション活動も促されるであろう。これらのことから、本タスクを解決することは、必然的にねらいにつながる言語を使い、コミュニケーション活動も促されることから効果的な英語活動として期待ができる。

(3) 場の設定、活動内容の工夫

児童の実態として、英語活動においてタスクの経験がほとんどないことから、取り上げる言語材料は比較的基本的なものとし、2時限に分けて学習するように配慮した。また、タスクの解決を円滑に進めるためにゲーム的な要素も取り入れ、楽しく活動ができるようにしていきたい。

5学年の児童は、今年度の英語活動の中で多くの「チャンツ」の経験をしてきている。そこで、本活動では、ウォームアップ等でチャンツ形式のリズム活動を取り入れる。チャンツは、英語活動をリズムカルに進める特徴があり、今回は、前時の活動を振り返る場面等に活用していく。特に、『on,in,under』の意味に合わせて、体を使った活動を行うことで、主活動のタスクに円滑につなげていきたい。さらに、CD教材を視聴させながら、ネイティブスピーカーの発音に触れさせたり、英文の意味『on,in,under』を視覚的に捉えさせたりするように配慮していきたい。

以上のことを通して、児童の表現意欲を向上させ、より楽しい英語活動につなげていきたいと考えている。

3 児童の実態

(1) 学校生活全般に関わって

本学級の児童は、男子19名、女子15名、計34名のクラスである。全体的には、男子に活発な児童が多く、女子は比較的小となしい児童が多い。休み時間など自由な時間は、みんな元気一杯に活動している。学習面では、進んで表現しようとする児童が少ないことから、授業中は出来るだけ自分の考えを表現する場を設けたり、帰りの会にスピーチを取り入れたりしながら、大勢の前で表現する機会を積極的に取り入れているところである。一方、体を使って活動することを好み、特にゲーム性のある活動には生き生きと取り組む。英語活動においても、ゲームや身体を使った活動等を取り入れることで、意欲的に取り組む場面が徐々に増えてきている。

(2) 英語活動の意識調査に関わって

事前の実態調査では、英語活動が「好き」「どちらかという好き」と答えた児童が約9割おり、その主な理由は「みんなでするゲームが楽しい」「話せたり、覚えられるとうれしい」「将来に役立つ」であった。相手とコミュニケーションを取りながら活動できるゲーム等を通じて、理解したり、表現したりすることに楽しさを感じているようである。しかし、一方では、英語活動が「嫌い」「どちらかという嫌い」という児童が約1割おり、その主な理由は「人前で英語を表現（会話）することに抵抗がある」という答えが最も多く、思春期に見られる羞恥心や失敗を恐れる傾向が強かった。また、嫌いな理由の中に「英語の質問の意味がよくわからない」「うまくできなかつたことがある」「授業のパターンが似ている」等があり、知識や技能を習得したいという欲求が満たされなかつたり、単調な授業展開に飽きてしまつたりする児童も見られた。

(3) 英語活動全般に関わって

今年度の5学年の英語活動は、4月に3時間、5月に3時間、6月に3時間、計9時間実施してきた。そのうち、HRTが単独で指導した活動は6時間であり、残りの3時間はHRTが主体となりALTとチーム・ティーチングで行ってきた。チーム・ティーチングでは、発音やデモンストレーションをALTにお願いし、ネイティブスピーカーとしての役割を担ってもらうようにした。

一方、昨年度までは、HRTが単独で指導した時間はわずかであり、ALTが授業の主体となりHRTがその支援をする活動形態がほとんどであったことから、児童は、HRTが主体となって行う英語活動によく慣れてきた段階であり、HRTによる「クラスルームイングリッシュ」に戸惑う場面も見られる。

このような現状を踏まえ、英語の言語習得を目指すのではなく、英語活動を通して、表情や話し方、ジェスチャー等を工夫しながら、英語の言語以外でも自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりすること（ノンバーバルコミュニケーション）を積極的に取り入れ、心の交流を楽しむ機会としていく。英語活動全体を通じて、仲間とかかわり合う機会を大切にし、自分の意志を表現したり、相手の思いを受け止めたりする児童の育成につなげていきたい。

4 本時の学習

(1) 日時 : 平成20年6月27日(金) 5校時(13:30~14:15)

(2) 場所 : 北杜市立高根西小学校 体育館

(3) ねらい: 動物の居場所を教えたり、聞き取ったりしながら、場所を表す言い方に慣れる。

(4) 言語材料: A ; Excuse me. Where is the ○○?

(cat, dog, bird, monkey, lion, tiger, bear, elephant, panda giraffe, koala, rabbit)

B ; (On, In, Under) the △△.

(box, tree, pond, house, bench)

(5) 展開

時間	子どもの活動	HRT の支援	教材・教具
1	1 はじめのあいさつをする。	○元気にあいさつする。 T : Let's begin! S : OK! ○児童の様子を見て, 児童に今の調子を尋ねる。 T : How are you? S : I'm ○○.(調子)	
9	2 チャンツで前時の活動を振り返る。 ・ネイティブスピーカー(CD)の発音を聞く。 ・前時の活動を再確認し, リズムに乗って発音する。 ・一人一人がリズムに乗って発音する。 ・出題用マップを見ながら, 動物名や居場所の言い方に慣れる。	○リズムの基本パターンを確認させる。 ☆CDに収録してあるネイティブスピーカーの発音をしっかりと聞かせるようにする。 Look at the screen. Please listen carefully. A : Where is the monkey? B : On the box. (In the box.) (Under the box.) ☆できるだけ一人ずつ発音させ, 苦手な児童の状況を確認し, 声をかけながら支援する。 ☆児童の実態に合わせたリズム速度で行うようにする。(ゆっくり→たんだん速く) ★進んで練習しているか確認する。 ☆慣れたら, 出題用マップを提示しながら, 動物や場所を替えるようにする。 Let's play chants! Look at the map. A : Where is the ○○? (Animals) B : On the box. (In the pond.) (Under the tree.) etc. ★リズムカルに単語を発音しているか。	プロジェクター パソコン CD リズムボックス 出題用マップ 動物カード
5	3 本時の活動について知る。 【タスク】 動物園マップを完成させよう (1)タスクの解決方法を確認する。 ・前時と同様な方法で行うことを知る。 (2)全体でデモンストレーションをする。(2回)	Let's start today's lesson. Let's make the zoo map! ○前時と同様な方法であることを伝え, ポイントを確認する。 ○動物を基準に居場所を答えても良いことを伝える。 ・質問者…貼った動物の居場所が正解ごとに1ポイント。全員ができたなら, さらに2ポイント。 ・解答者…質問者の質問に正しく答えられたら1ポイント。全員ができたなら, さらに2ポイント。 A : Excuse me. Where is the ○○? (animals) B : On the △△. (In the △△.) (Under the △△.) A : Thank you. B : You're welcome.	作業用マップ 動物カード 出題用マップ ポイントカード

5	<p>・居場所を尋ねる言い方に慣れる。 Excuse me. Where is the ○○?</p> <p>・動物の居場所を聞き取る。 ※ 代表者を選出する。</p> <p>・代表者が、動物カードを「作業用マップ」に貼る。 S : Thank you. T : You're welcome.</p> <p>(3) 班内で2つに分かれて、会話に慣れる。 ・(2)と同様に行う。</p>	<p>○動物カードを提示しながら動物名の言い方を確認させる。</p> <p>☆居場所を表す場所や前置詞に留意させる。 ☆分からない児童や消極的な児童に声をかけ支援する。</p> <p>○「Help me!」を活用して、助け合いながら活動を進めて良いことを知らせる。 ☆相手へのマナーとしてしっかりお礼を言う大切さに触れる。</p> <p>★進んで考え、活動しているか観察する。</p>	
20	<p>4 タスクを解決する。 (1) タスクの解決方法を再確認する。</p> <p>① A,B,C グループに分かれ、各グループごと質問者、解答者に分かれる。</p> <p>② 質問者が「動物カード」をヒントに、動物の居場所を尋ねる。</p> <p>③ 解答者は、出題用マップをもとに、その動物の居場所を答える。</p> <p>④ 質問者は解答を受けて、作業用マップに動物を貼る。 ※ 1問1答でローテーションする。</p> <p>⑤ 出来るだけ全員が解答して、動物園マップを完成させる。 ※ 制限時間3分間。</p> <p>⑥ 終了後、質問者と解答者を交代し、①～⑤を繰り返す。2回ずつ行う。 ※ 合計ポイントで勝敗を決定する。</p> <p>(2) 身近なものを取り上げて会話に活用する。 ・本時の活動内容を生かし、身近な場所に実際にあるものを探して答える。(代表者 2～3名)</p>	<p>○生活班の1～6班を使ってグループを分ける。(人数調整をする。)</p> <p>★「居場所」を意識しながら、進んで考え、活動しているか観察する。</p> <p>★必要に応じて「Help me!」を活用して、助け合いしながら、活動を進めているか観察する。</p> <p>☆分からない児童や消極的な児童に声をかけ、支援する。</p> <p>○教室に、実際にあるものを質問の対象とさせ、その答えに応じて、実際に探させるようにする。 ☆分からない児童や消極的な児童に声をかけ、支援する。</p>	<p>出題用マップ 作業用マップ 動物カード ポイントカード (各3セット)</p>
4	<p>5 「振り返りカード」に記入し、活動をまとめる。</p> <p><any questions></p> <p>・他の動物名を知りたい。 ex) 馬(horse),羊(sheep),蛇(snake) etc.</p> <p>・他の前置詞の言い方を知りたい。 ex) 前(in front of),後ろ(behind),近く(near),上空(over),外(out),隣(next to) etc.</p>	<p>○活動のまとめ(感想)や<any questions>等を記入させる。</p> <p>○記入の様子を観察し、必要に応じて紹介する。</p> <p>★活動を振り返り、感想や今後の課題等を書くことができたか。</p>	<p>振り返りカード</p>
1	<p>6 終わりのあいさつをする。</p> <p>T : Let's finish! S : OK! S : Thank you Mr.Shimizu. T : You're welcome!</p>	<p>T : That's all for today.</p>	

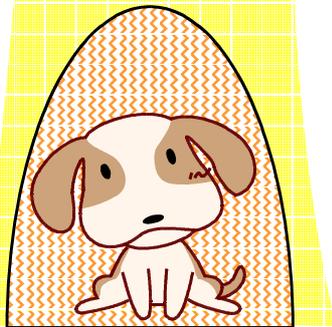
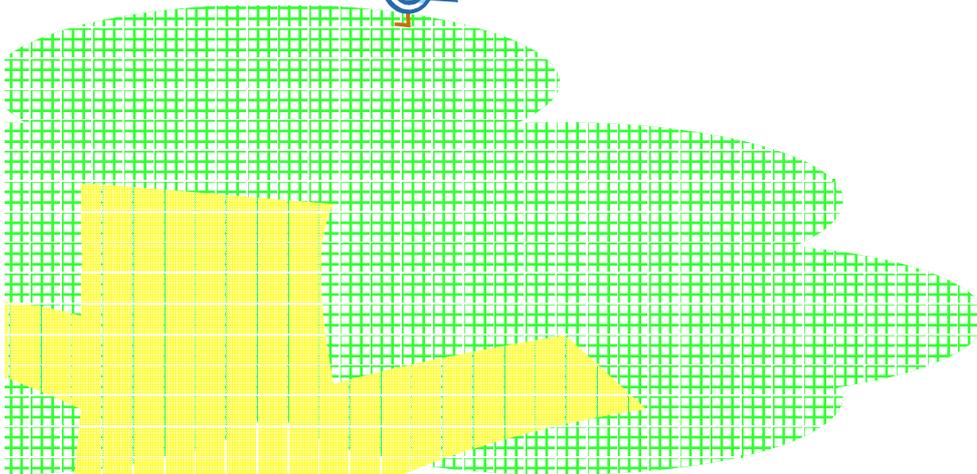
★観察ポイント ☆支援のポイント

The zoo map!

～ 動物園マップを完成させよう! ①～



on the tree.



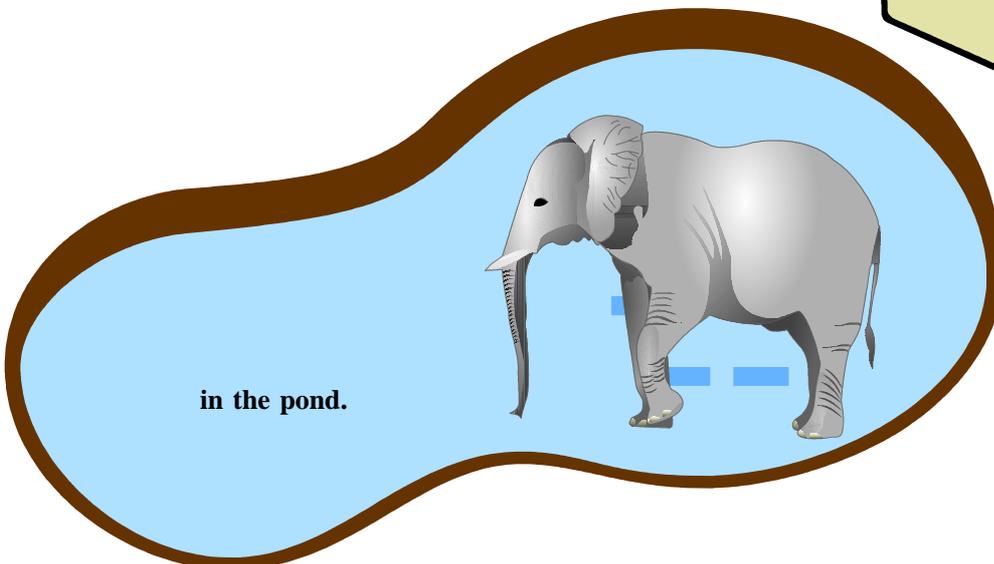
in the tree.



under the tree.



on the box.



in the pond.

6 成果と課題

(1) 成果について

- ・英語活動の中で英単語やセンテンスに慣れさせたり、繰り返して確認したりする場面において「チャンツ」を取り入れることはとても効果的であった。特に、体を動かしながらゲーム的な要素を加えた方法は、子どもたちがリズムカルに生き生きと活動し、飽きることなく興味を持続させることにつながった。
- ・学級担任が単独で英語活動する時には、子どもたちにCD等のネイティブスピーカーの発音を聞かせる活動を多く取り入れた。このことによって、子どもたちが英語本来の発音に触れることができるとともに、指導者の発音に対する補助教材としても有効であった。
- ・パソコンを利用した視聴覚教材や英語の歌（元気イングリッシュなど）を活用したことにより、子どもたちの興味を喚起させ、ネイティブスピーカーの発音に自然に親しませることにもつながった。また、子どもたちが、休み時間などに取り組んだ歌を口ずさんでいる姿も見られた。
- ・5年生という高学年の子どもたちの発達段階を踏まえて、課題をやりとげる「タスク」活動に取り組んだ結果、子どもたちは意欲的に解決しようと取り組むことができた。特に、動物の居場所を尋ねたり、地図をもとに答えたりする会話を通して、子どもたち同士のコミュニケーション活動にもつながり、英語活動の目指している本質にも触れさせることができた。
- ・班ごとにポイントを重ねるゲーム的な課題に取り組むことで、「Help me!」で仲間が困っていることを教えてあげたり、一緒に喜んだりする場面が見られ、班内に協力しようとする連帯感が生まれ、集中して活動を共有することができた。
- ・本時のタスクの解決だけでなく、「Thank you.」「You're welcome.」等の会話にくり返し親しんだことで他に場面においても使うことができるようになってきた。

(2) 今後の課題について

- ・活動時間内に予定していた内容が実施できない部分があった。子どもたちが、限られた時間の中で英語に触れ、理解し、表現していくことができるようにさらに内容を精選し、ポイントを絞った活動にしていく必要がある。
- ・クラスルームイングリッシュをできるだけ使うように心掛けてきたが、その時に応じて臨機応変に使うことができなかった。今後も英語活動の中でさらに積極的に使うように心掛けていきたい。
- ・学級担任が単独で授業する場合、子どもたちによりネイティブスピーカーの発音に触れさせるためには、CDなど教材だけでは対応できないことが多かった。今後は、ALTばかりでなく、JET、VET等との連携を深め、活用していくことを視野に入れて授業を展開していく必要性を感じた。
- ・文科省で推奨している「英語ノート」を取り入れた活動がまだ十分とは言えない。今後は、子どもたちの実態に応じて、できるだけ活用しながら子どもたちの充実した活動につなげていきたい。
- ・英語活動の評価について、どのようにしていったらよいかを考えていく必要がある。
- ・授業後の振り返りカードから、子どもたちが「英語活動が楽しい」と感じる場面は、英語を理解したり、表現したりする場面より、「ゲーム」などの活動そのものであることが多かった。今後は、子どもたちのニーズを考慮しながら、英語に触れる「喜び」や、やり遂げる「達成感」などを味わえるように、今まで以上に活動を工夫し、子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばさせていくことが大切である。

7 子どもたちの感想（「振り返りカード」から）

(1) Q. 今日の英語活動は楽しかったですか？

- ・とても楽しかった（28人）
- ・楽しかった（4人）
- ・楽しくなかった（0人）

(2) Q. あなたは今日の英語活動に意欲的に取り組みましたか？

- ・とても取り組めた（29人）
- ・取り組めた（3人）
- ・取り組めなかった（0人）

(3) 楽しかったこと、質問、感想など（意見の多い順）

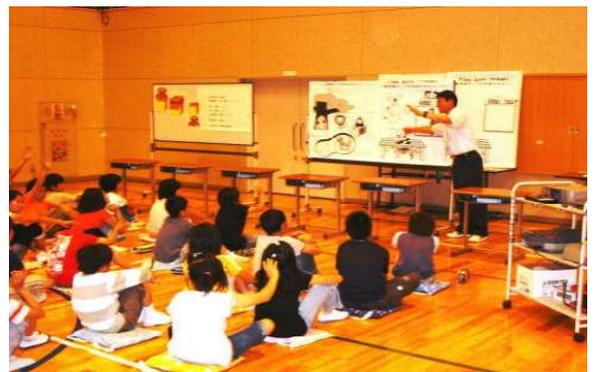
- ・動物園マップをつくるゲームが楽しくて（1位になれて）良かった。
- ・動物を地図に貼ったりできたので楽しかった。
- ・もっといろいろな動物の英語の言い方を知りたい。（またやりたい）
- ・英会話がパーフェクトに言えて（少し覚えられて）良かった。
- ・今日はたくさんの先生方が見ていて緊張した。
- ・英語で「on,in,under」の言い方や意味が分かって良かった。
- ・動物園マップが完成して、動物の居場所が分かってうれしかった。
- ・友達と英語の質問をしたり、答えたりできて楽しかった。
- ・班全体では、スムーズに言えた人が多かったけれど、自分が言えないときがあったのでもっと上手に言えるようになりたい。
- ・もっと英語が言えるように頑張っていきたい。
- ・「机」(desk)の言い方が初めてでよく分からなかった。
- ・「ななめ」(方向)の言い方を知りたい。

8 授業の様子



<前時の復習>

「on,in,under」の意味を絵図を使って確認したよ！



<タスク活動の準備…>

「動物園マップ」の作り方って…！？

< タスク活動「動物園マップを完成させよう！」 >



英語活動指導案 (自主公開授業)

指導者 HRT 清水 道晃

1 題材名 「教科の言い方に親しもう」 ～時間割を紹介しよう～

2 場の設定・活動の工夫

- ・時間割を紹介する活動を通して、児童相互のコミュニケーションを促し、成就感を持てるようにする。
- ・ペアで「サイモン・カルタゲーム」を行い、集中して聞こうとする意欲を高め、教科の言い方に親しむ。
- ・活動の中に「英語ノート」を取り入れたり、ネイティブな発音を聞かせるために付属CDを活用したりする。

3 本時の学習

(1) 日 時 : 平成20年11月26日(水) 3校時 (10:50~11:35)

(2) 場 所 : 北杜市立高根西小学校 5年教室

(3) ねらい : 教科の言い方を聞いたり、自分の時間割を相手に伝えたりする活動を通して、教科の言い方に親しむ。

(4) 言語事項 : Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday

Japanese, social studies, math, science, English, home economics, arts and crafts, PE, music

A : What do you study?

B : On (曜日) I study (教科).

A : Thank you.

B : You're welcome.

(5) 展開

時間	子どもの活動	HRT の支援	教材・教具
1	1 はじめのあいさつをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">T : Let's begin! S : OK!</div>	○元気にあいさつする。	
3	2 "Sunday Monday Tuesday"を歌う。 ・発音を確認して2回歌う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday</div>	○一緒に歌う。 ☆CDに収録してあるネイティブスピーカーの発音をしっかり聞かせるようにする。 Look at the blackboard. Please listen carefully.	CD(デッキ)
1	3 本時の活動について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">時間割を紹介しよう</div>	Let's start today's lesson. Let's make a class schedule!	
5	4 チャンツで教科の言い方を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;">Japanese, social studies, math, science, English, home economics, arts and crafts, P.E., music</div> ・HRT に続いて発音を繰り返す。 ・リズムに乗って発音する。	○リズムの基本パターンを確認させる。 Let's play chants! ☆できるだけ正確な発音のモデルを示す。 ☆一人ずつ発音させ、苦手な児童の状況を確認し、声をかけながら支援する。	リズムボックス

5	<p>5 「サイモン・カルタゲーム」をする。 【ルール】</p> <p>①ペアになって、教科のカード（英語ノート巻末絵カード）を2人の間に並べ、指導者が言ったカードを取り合う。→ポイント制で多い方が勝ち。</p> <p>②ただし「Simon says ～」の時は、指置きのみで取ってはいけない。</p>	<p>○隣同士がペアとなることを知らせ、あらかじめ切り抜いてある「教科カード」（1セット）を2人の間に並べさせる。</p> <p>○「Simon says ～」の時は、指置きのみで取ってはいけないことを知らせる。</p> <p>☆できるだけ各教科を取り上げるように配慮し、言い方に慣れさせる。</p> <p>★進んでゲームに参加しているか確認する。</p>	教科カード(巻末絵カード)
5	<p>6 英語ノート P53【Let's Listen】を行う。（時間割を完成させる）</p> <p>・CDを聞いて、あらかじめ切り抜いてある教科の巻末絵カードをシートに置く。</p> <div data-bbox="167 734 678 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ Monday …… music ・ Tuesday …… arts and crafts ・ Wednesday … English, home economics ・ Thursday …… science, math ・ Friday …… social studies, P.E.</p> </div>	<p>○英語ノート P53【Let's Listen】の解決の仕方を説明し、CDを聞かせる。</p> <p>☆CDに収録してあるネイティブスピーカーの発音をしっかりと聞かせるようにする。</p> <p>Please listen carefully.</p> <p>☆CDの内容に合わせて、表を指し示し、理解しやすいように配慮する。</p>	英語ノート教科カード(巻末絵カード)
8	<p>7 自分達の時間割を決め、紹介する準備をする。（1～2時間分/曜日）</p> <p>①生活班ごと各曜日の担当を決める。</p> <p>②自分達の時間割表を作成する。（巻末絵カードを引いて時間割表に当てはめる。）</p> <p>③会話の仕方を知る。</p> <div data-bbox="359 1256 981 1442" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A : What do you study? B : On <u>曜日</u> I study <u>教科</u> . A : (各個人の時間割表にカードを置く) B : OK! / No good! A : Thank you. B : You're welcome.</p> </div> <p>④自分が紹介する曜日について練習する。</p>	<p>○各班ごと時間割を円滑に作成できるよう言葉がけをする。</p> <p>☆「巻末絵カード」を利用して、できるだけいろいろな教科を入れるように促す。</p> <p>☆6人の班は2人で一つの曜日を担当する所を決めさせる。</p> <p>○質問、応答の仕方、会話の流れを知らせる。</p> <p>○「Help me!」を活用して、助け合いながら活動を進めて良いことを知らせる。</p> <p>☆分からない児童や消極的な児童に声をかける。</p> <p>★「曜日」「教科」を意識しながら、進んで考え、活動しているか観察する。</p>	英語ノート
13	<p>8 各班ごと時間割を紹介し合う。</p> <p>①A（質問班）がB（応答班）に質問し、Bが応答する。</p> <p>②AはBの答えを聞き取り、自分の時間割表に絵カードを置く。</p> <p>③Bは、Aの活動の正誤を伝える。</p> <p>④Aは、正解したらお礼を言う。</p> <p>⑤BはAの言葉に応答してから次へ伝えるために隣へ移動する。</p> <p>⑥全ての時間割が完成して終了。</p>	<p>○2つの生活班をそれぞれ「質問班」と「応答班」とし、前半と後半で立場が入れ替わるようにさせる。</p> <p>☆分からない児童や消極的な児童に声をかける。</p> <p>☆相手へのマナーとしてしっかりお礼を言う大切さに触れる。</p> <p>★進んで考え、活動しているか観察する。</p>	英語ノート

	⑦ AとBの立場を入れ替えて、前半と同様に後半を行う。(各5分) ・質問応答ができない時には、友達同士助け合うようにする。	★必要に応じて「Help me!」を活用して、助け合いしながら、活動を進めているか観察する。	
3	9 「振り返りカード」に記入し、活動をまとめる。 〈any questions〉 ・他の教科名を知りたい。 ex) 道徳(Morality), 書写(calligraphy) etc.	○活動のまとめ(感想)や〈any questions〉等を記入させる。 ○記入の様子を観察し、必要に応じて紹介する。 ★活動を振り返り、感想や今後の課題等を書くことができたか。	振り返りカード
1	10 終わりのあいさつをする。 T : Let's finish! S : OK!	T : That's all for today.	

★観察ポイント ☆支援のポイント

4 授業の様子 (自主公開授業より)

☆「英語ノート」を使って、題材名「教科の言い方に親しもう」～時間割を紹介しよう～に取り組みました。



☆ リズムボックスを使って…
「曜日」の言い方を『レッツ! チャンツ!!』



☆「英語ノート」を使って時間割を作りました!



☆「サイモン・カルタゲーム」… いざ勝負!
集中して聞き取ったり、発音したりしながら、教科の言い方に親しみました。



☆最後に…自分たちで作った時間割を「曜日」と「教科」の言い方を使って紹介しました!